

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871400226
法人名	医療法人青峰会
事業所名	アクティブライフ宇和
所在地	西予市宇和町卯之町5丁目233番地
自己評価作成日	平成28年1月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>入居者さんのできる事を奪うことなく、一人一人の気持ちを考えながら、その人らしく生活していただける様に支援している。 第2の我が家になるよう、居心地の良さを提供していきたい。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>居間には、利用者と職員で作った干支の貼り絵を飾っていた。廊下には行事時の写真を掲示していた。ソファの方向をいろいろに変えて配置しており、日中はそれぞれがお気に入りのソファに座って過ごしている。居間に小さい敷き布団を敷いており、横になりたい方が使用している。昼食後に、食堂をほうきで掃いてくれる利用者があり、管理者は「ありがとうございます」とお礼を言っていた。 食事の献立は、利用者の好みを聞きながら1ヶ月分作成している。重度の利用者が多いユニットでは、朝食と職員が2名体制の時はおかずを外注している。ミキサー食は、ひと品ごとミキサーにかけて盛り付けており、内容を伝えてから口にできるように支援していた。季節に応じた献立を考えており、2月は恵方巻きとイワシ、3月にはお節句にちらし寿司を作ることになっている。畑で利用者と一緒に野菜を作っており、メニューに採り入れている。調査訪問日の昼食後は、自主的に下膳する方や、「洗おうか」と食器洗いを申し出て職員と一緒に洗い物をする方の様子が見られた。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 アクティブライフ宇和

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 笹田 智子

評価完了日 H28 年 1 月 8 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 理念について全職員で話し合い決め、それに基づいて 実践している。目に付くところへ理念を掲示してい る。	
			(外部評価) 開設後、理念を2回見直しており、現在は、「地域に開けた施 設作りをし、その人らしい人生を共に考え、笑顔のある生活 を送れるようお手伝いをする」という理念を掲げている。理念 は事務所に掲示している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 主に買い物は近所の薬局やスーパーを利用し、出来る限り利用者様 と一緒に出かけるようにしている。また、回覧板のやり取りをし、 地区の行事（掃除・総会・敬老会・非常災害時訓練など）には積極 的に参加している。地域の祭りの時には必ず訪問していただいでい る。地域住民参加型の行事（納涼祭・介護教室など）も開催してい る。日頃からあいさつを交わしている。御近所の方が育てたお花を 頂く事もある。 中学生や保育園児の訪問もある。 日常的な交流が出来ているとはいえない。	
			(外部評価) 納涼祭は、事業所のことを知ってもらうことも目的の一つとし て行っており、回覧板で案内を回してもらったり、近所の商 店や保育園にポスターを掲示させてもらった。利用者や地域 の方に楽しんでもらっており、今後も続けていきたいと考えて いる。近くの神社に初詣に出かけた際には、近所の方が利 用者の車いすを押してくれて、その間事業所のことを知って もらう機会にもなった。集会所で介護教室を行っているが、 地域の方の参加はほとんどないようだ。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 中学生の福祉体験実習の受け入れを行っている。ま た、介護教室を開催している。 福祉ふれあい体験ボランティア受け入れ施設になっ ている。 地域の方が参加できる納涼祭を開催している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームからの報告を行い、意見を聞かせてもらっている。主に、行事・レクの情報を頂いている。ご意見や指導があったものは、改善に努めている。 議事録を閲覧し、運営推進会議時の意見や情報をスタッフ会議で職員へ伝え、内容を共有する事でサービスの向上に活かしている。 (外部評価) 会議は、納涼祭・家族会・保育園児との交流会等の行事と併せて開催することもある。民生委員、区長、保育園長にも参加を依頼しているが、参加は少ない。さらに、会議の目的や意義等を参加者とも確認して、すすめ方や内容に工夫を重ねてほしい。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の担当職員の方に運営推進会議へ参加してもらっていて、その時に事業所の実情等に関して報告している。質問・苦情・事故・入退居などがあれば、その都度、報告・連絡・相談をしている。 介護相談員の方の訪問も受け入れている。 (外部評価) 運営推進会議では、介護保険情報や制度の説明、防災メール登録の案内や感染症予防接種案内がある。利用者が介護相談員と顔なじみになれるよう、毎回同じ介護相談員の訪問を希望したが、決まり事もあって採り入れてもらうことは難しかったようだ。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関や居室の施錠は行っていない。 どうすれば身体拘束をせずに、安全で自由に過ごせるかを常に考え、話し合いケアにあたっている。 やむを得ず、鈴やセンサーマットなどを利用しているが、拘束に値するという認識を常に持ち、ケアにあたっている。 (外部評価) 職員会議時に、身体拘束しないケアについて話し合っている。帰りたい気持ちが強い利用者については、ご本人の思いで過ごしてもらえるように職員で話し合っ、利用者の所在確認を徹底することや、一緒に歩いたり買い物等して気分転換できるような支援を申し合わせた。立ち上がりが不安定な利用者には、ご家族と相談して、スリッパの片方に鈴を付けて対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人内・外での研修に参加している。 虐待が見過ごされないよう職員同志で注意し合っている。 スタッフ会にも議題で取り上げ意見し合っている。 細かく身体チェックし、内出血等の確認を行っている。発見時には事故報告を行い原因の追究をしている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度については研修参加や自己学習をし知っている職員もいるが、ホーム入居者で必要な方がなく、活用はされていない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 施設長やケアマネが丁寧に説明し、同意を得ている。 法改定や契約内容の変更があれば、口頭説明と説明文章を添えて同意を得るようにしている。 施設長が不在の時でも、簡単な質問であれば答えられるように職員へも契約内容の説明がしっかりされている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会や電話対応の際必ず近況報告をし、家族が職員と話しやすいようこちらから働きかけている。また、意向の確認を行っている。意見箱を玄関に設置している。契約時に相談窓口について説明している。家族からの意見に対し、スタッフ会等で話し合い対応し、家族に報告している。個別援助計画に家族の意見欄を設けている。入居者さんへは、日頃から気持ちを聞いたり、思いの理解に努め対応している。介護相談員の訪問もあり、意見を聞いてもらっている。運営推進会議に参加してもらい意見を伺っている。法人が満足度調査を毎年行っている。 (外部評価) 利用者個々の担当職員が毎月、利用者の様子をまとめており、写真を添えてご家族に送付している。行事案内や職員の異動については、運営推進会議議事録を送付することで報告している。遠方に住むご家族には、利用者の普段の様子をビデオレターにして送付し喜ばれている。法人では毎年、満足度調査を行っており、又、介護計画書には、家族の意見欄を設けているが、意見や要望はあまり出ないようだ。	家族会や運営推進会議等を活用して希望を聞き、又、ご家族来訪時にも意見や要望を引き出せるように工夫してみたい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者へは、個別の面談や日常的に意見を伝えることができ、ホーム単独で改善できる内容のものはスタッフ会や朝の申し送り時のミニ会議で決定しすぐに対応反映されている。また、法人課長が不定期に訪問している。職員の体制の問題は意見しても改善されない。法人の上層部がほとんどのことを決定し、意見はできるが決定は覆せない。 (外部評価) 職員からの提案で、利用者と一緒にお菓子作りをする機会を作った。毎月、職員会時に勉強会を行っており、新人職員は、先輩職員に介助方法等を相談しながら支援に取り組んでいる。又、外部研修を受講した際の資料はファイルしており、いつでもみることができる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格取得を奨励している。正職員登用制度がある。管理者と職員は年2回の面談を行い、良い点や改善点を話し、評価を行っている。面談後に職員の勤務実績を上司に報告している。昨年、給与に関して見直しが行われたが、まだまだ給与水準が低い。管理者は、昼休憩をとるように言っているが、満足に取れないときが多い。スタッフの人数が少ない時があり、1人1人の負担が大きい。また、そのしわ寄せが入居者にも影響している。手厚いケアの実践には、スタッフの人数を安定させる必要があるが、人員補充が遅い。	
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 年2回能力開発カードの実施と管理者からの報告はしているが、職員1人1人の把握ができているとは思えない。法人で新入職員・中堅者・管理者研修と付帯施設安全対策委員の勉強会・接遇委員の話し合い・介護手順書作成委員の作成会議・ホームの勉強会がある。法人外の研修情報提供と参加のためのフォローもされている。管理者は、年間研修プログラムを組み、職員が研修参加できるようにしている。新入職員の指導担当を中堅職員が行っている。教える立場の中堅職員の成長も望める。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 会議や相互研修を通して、法人内の職員との交流がある。福祉ボランティアの会で同業者との交流がある。外部の研修や交流会へ参加し交流している。継続した交流はもてていないが、その時々で情報交換をし、良いことは持ち帰り職員間で話しをしている。法人内の看護師等に来て貰い、勉強会を行っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 積極的に声かけをし、ゆっくりと話しができるよう配慮している。話を傾聴し、その方の思いの理解に努め対応している。意思疎通の困難な方は、行動などで理解しようとしている。入居前は、事前訪問・事前見学を勧めて行っている。入居前の情報をしっかりアセスメントした上で話を傾聴し、全職員が情報を共有し対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前には、事前訪問をし、ホームに入居してからの必要な援助等について話し合いを行っている。面会時には、日常の近況報告を必ず行っている。見学时・契約時や面会時に何か疑問や要望がないか伺うようにしている。介護計画書の中にも、希望・要望が書き込めるようにしている。 家族・入居者の希望があれば、ホームでの生活を見ていただくために、家族の宿泊を了解している。家族が職員に意見を言いやすい環境づくりに努めている。 月に1回手紙を書いて近況報告をしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前に事前訪問をし、情報収集を行っている。 生活歴・家族や本人の話し・医師の所見等から何が必要で求められているのかを見極める努力をし、ケアプランに反映させている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の好み・能力に合わせて、家事などの生活上の仕事を分担して役割を持って生活して頂いている。手伝いの際「ありがとう」の声かけをし、持ちつ持たれつの関係ができています。 入居者1人1人の楽しみを見つけ、共に暮らす喜びを得られるように支援している。 男性の入居者さんは、家事ができないため手持ち無沙汰になっている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 外出・外泊・病院受診など協力してもらっている。また、職員では対応しきれない内容・状況があるときには、協力してもらうことがある。些細なことでも、情報交換・情報共有している。壁新聞で日頃の様子を写真を張り出し、面会時にみてもらっている。毎月定期の報告に写真送付状を送付している。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行きたい場所や馴染みのある場所の聞き取りをして、外出レクやドライブに取り入れている。 本人・家族にかかりつけや行きつけを確認し、入居後の美容院・病院など相談し決めている。 自宅が近所の方の面会もある。面会時には、居室でゆっくりと過ごせるように配慮している。 (外部評価) 近くに住む親戚の方宅への行き来を自由にできるよう、職員は親戚の方と連絡をとり合って見守り支援している。入居間もない頃は、近所の方や知人の訪問があっても、じょじょに足遠くなっていくような傾向があるようだ。利用者が馴染みある人とかがわりを続けられるような支援に工夫できることはないか、話し合ってみてほしい。発語が少ない利用者のご家族の来訪時には職員が仲に入り、ご家族との会話のサポートを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 関係性を考慮し、座席の配置を工夫している。仲の良い関係や対立する関係を見極めて、必要な時だけ間に入り援助している。利用者同士で話したり、共同で行える作業活動や遊びの提供をし、孤立することのないよう努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院になった場合、居室の取り置き期間があり、ホームに戻りたいと希望があれば期間内の取り置きを行い、入院中の方を見舞ったり、病院とも連絡を取り合うようにしている。退居された方の御家族の訪問がまれにある。他施設へ移られた方の面会に行くことがある。退居後の相談はない。	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 思いや要望を日頃から伺い、ケアプランに反映させている。 思いを伝えられない方も、御家族の話や日頃の様子・生活歴を見て求められていることや必要性を考え、話し合い検討し実践している。 (外部評価)	
			入居前に、ご家族、医療、介護支援専門員から情報を集めており、入居後1ヶ月、その後は、3ヶ月ごとにアセスメントを実施している。日々の利用者の言葉を記録して、職員会時には個々の思いや意向について話し合っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前訪問・入居時や面会時に御家族や親戚や友人から情報収集している。また、利用していたサービス事業者の方やケアマネージャーからも話を伺うようにしている。また、生活の中で本人からも伺うようにしている。していた仕事や趣味で生活に活かせることを探るようにしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の生活の中で状態観察をし、変化があれば記録に残し、情報を共有している。また、スタッフ会やケアカンファレンスでも状態変化に伴い話し合いアセスメントをしている。 残存機能を活かしたケアの取り組みをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>適宜カンファレンスを行い、作成している。 御本人・御家族の意向を踏まえ、各スタッフで適宜情報共有し、異なる視点から意見を聞き、1人1人の合ったケアプランの作成をしている。 日常の中で発した意見・希望、面会時に聞いた要望、通院や往診時のDrやNsのアドバイス・指示をふまえ作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画には、日常生活の中の言葉を記入して、利用者の思いを踏まえた計画作成に努力している。計画書書式には、家族の意見欄を設けているが、現在は、感謝の言葉を書く方が多い。3ヶ月ごと及び状態変化時に計画の見直しを行っている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個人記録ファイルにケアプランを挿み、また、個人記録に目標・援助内容を記入し、日々確認できるようにしている。 介護記録に様子が分かるように気づき・対応をこまめに記入し、申し送っている。また、体調の変化にも早期に気付けるよう工夫・対応している。既往歴や健康状態の不安定な方は、血圧や体温等の測定回数を増やし、手帳等の記入活用も行っている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>それぞれの主治医との連携も行い対応している。 医療連携体制をとっており、週1回の看護師の訪問により、アドバイスを受けている。 また、急変時にも対応できるようにしている。 訪問理美容・介護タクシーの利用など導入している。 必要に応じ、適した医療機関を受診している。訪問看護や訪問マッサージも利用している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>依頼をし、ボランティアの訪問、消防署協力による避難訓練及び指導に来て頂いている。 月に1回訪問理容に来てもらっている。 近くのスーパーや薬局・お店へ入居者の方と一緒にいる。 週1回パン屋に来てもらい、好きなパンを選んでもらっている。 訪問看護やマッサージを利用している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 入居時に希望の医療機関や主治医を伺い対応している。症状に合わせて、適切な医療機関の受診ができるようにしている。また、主治医にも相談しながら支援している。定期的受診時には、受診メモを作成し、日頃の様子が分かるようにしている。</p> <p>(外部評価) 入居時、ほとんどの利用者ご家族は、協力医で診てもらうことを希望される。協力医は、ほぼ毎日往診に来て、1日に1~4名ずつ診ており、職員は、必要時に相談等している。又、契約看護師・協力医の看護師それぞれに、週1回訪問がある。他のかかりつけ医に介護タクシーを利用して受診する方もあり、その際には、書面で情報提供をしている。訪問調査時、服薬支援は職員2名で確認していた。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 医療連携看護師に状態を毎日報告し、週1回の定期訪問時に相談・アドバイスを受け専門的な意見を聞いている。終末期の対応も可能。ホームの協力医の訪問看護師にも相談しながら対応している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時には、医療機関へ情報提供している。入院中には、職員が面会し、医師や看護師・ご家族から状態について情報を得て退院に向けて備えている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居時に看取りに対する現時点の考えを伺っている。重度化してきた場合には、本人・家族・主治医などが必要に応じて話し合い相談し、今後の方向について決めている。また、ホームで対応可能な内容についても話をして理解を得ている。余命宣告を受け、終末期に入られた時点で同意書を交わし、家族・医師・看護師との話し合いをくり返し、不安の解消と具体的な支援を決定している。終末期のあり方については、運営推進会議で議題にし、御家族・入居者が考え備えるための話し合いが出来た。終末期（看取り）についての勉強会も行っている。</p> <p>(外部評価) 入居時に看取り支援について説明して希望を聞くが、ほとんどのご家族が「今は考えられない」「こんなことも考えとかないかなのやな」と言われるようだ。状態変化時には、ご本人、ご家族、医師で、今後の暮らし方について話し合っている。運営推進会議時に、終末期のあり方について話し合ったことがあり、ご家族は、看取りについて考えるきっかけになったようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時のマニュアルがある。緊急時急変時の勉強会も行っている。また、経験の浅い職員に対しては研修参加をさせたり指導も行っている。 連絡体制については、スタッフ会等で話をし周知している。また、いつでも確認できるようにファイルしている。 救命救急講習も順次受講しているが、実際に行うとなると自信が持てない職員がいる。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害対策マニュアルを作成し、いつでも見られるようにしている。 スタッフ会で誘導・通報・応急手当等の分担について話をし、自分の役割を把握している。 定期的に避難訓練を行い、入居者の方にも避難経路の確認をしてもらっている。 運営推進会議を利用し、メンバーさんにも協力してもらい避難訓練を実施しているが、協力体制の確立は出来ていない。 (外部評価) 年2回火災避難訓練を行っており、消防署から重度の方は、なるべく1階ユニットを利用してもらえるよう指導があった。2階ユニットの利用者は、普段から階段を使って昇降できるよう支援している。地震訓練時には、テーブルの下に隠れる訓練を行った。転倒の心配や、かがみ方等、注意点がわかったようだ。職員の役割分担を決めており、全員が持ち出し袋や避難経路を把握している。地区の避難訓練には職員が参加している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 1人1人に尊敬の気持ちを持ち、否定的な声かけではなく、肯定的な声かけを行うように努めている。また、排泄のケアに関しては、一番プライバシーを損ねるリスクがあるため、職員同士の伝達は記録で行い、口頭伝達を控えている。 記録などの取り扱いにも注意している。 居室への入室の際は必ず本人の了解を得ている。 言葉遣いに気をつけ、不適切な言動があれば職員同士で注意しあっている。 接遇委員会で話し合いの場を設けている。接遇に関する目標を立て実践している。 (外部評価) 法人内で行う接遇委員会に担当職員が参加し、事業所に持ち帰り報告を行っている。職員は、言葉遣い等、気になったことはその場で注意し合っている。排泄についてのやり取りは小声で行い、個人情報了他利用者に聞こえないよう職員の会話の大きさにも注意をしている。又、個々にとって、つらいことや恥ずかしいこと、踏み込んでほしくないこと等を知り、気を付けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 着る服・食べたいもの・見たいものなど本人から聞き取り対応している。 物事を決めるときには、まずは聞くという基本を忠実にやっている。また、意思の表出を促し、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 掃除・体操・食事・入浴の時間は大体決まっているが、その時にするかしないかは本人の意思にまかせ時間をずらして対応することもある。できるだけ利用者の要望に沿った暮らしができるよう援助している。概ね、自分のペースで自由に過ごしている。突然の外出希望も出来る限り対応しているが、無理な場合は日を改めて対応している。昔からの生活スタイルがあるので、起床就床時間については、本人の意思訴えに合わせて対応している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自己決定できる方には、自分で服を選んでもらったり、髪型を決めたり出来るよう援助している。認知症のため自己決定が出来ない方は、ご家族の意向を伺ったり、昔の写真を見せてもらったりし支援している。爪切りや髭剃りはこちらが気をつけ行っている。髪飾りやピン止め・化粧水や乳液やクリーム・リップなど個人の要望があれば買い物へ出かけて購入し利用している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえ・調理・配膳・下膳・食器洗い・台ふきなど個々の能力にあった手伝いを一緒にしている。また、好みも聞き取り把握し、献立に取り入れて美味しく食べて頂けるように工夫している。 本人の意向と嚙下や咀嚼のレベルに合わせて、安全に食事が行えるよう形態を工夫している。自助具も活用している。 食事は、職員も一緒に食べるようにしている。自力摂取を促し、自分のペースで食事が出来ている。 ホームの畑で野菜を育てて一緒に収穫し、調理している。 (外部評価) 献立は、利用者の好みを聞きながら1ヶ月分作成している。重度の利用者が多いユニットでは、朝食と職員が2名体制の時はおかずを外注している。ミキサー食は、ひと品ごとミキサーにかけて盛り付けており、内容を伝えてから口にできるように支援していた。季節に応じた献立を考えており、2月は恵方巻きとイワシ、3月にはお節句にちらし寿司を作ることになっている。畑で利用者と一緒に野菜を作っており、メニューに採り入れている。調査訪問日の昼食後は、自主的に下膳する方や、「洗おうか」と食器洗いを申し出て職員と一緒に洗物をする方が見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事のメニューは、バランスを考えて好みも考慮し作成している。 こまめに水分補給を促している。ポカリスエットも常備して提供している。水分摂取拒否のある方に対して、容器の変更をしたり、時間をずらして提供したり、好みの飲み物を提供したりと工夫している。 それぞれに合わせた、食事量・形態で介助も必要に応じ行っている。 食事量のチェックをして、状態に応じて栄養補助食品で対応している。 個人の好物も常備し、要求があれば提供している。 月に1回体重測定をしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時と毎食後、口腔ケアを援助している。 その人その人の能力に応じ、足りない部分を介助している。 粘膜ブラシや指で口腔内のマッサージを行っている。必要に応じて、入れ歯洗浄剤を使用している。 歯科衛生士の指導を受け、口腔ケア・口腔マッサージを行っている。各々に合った口腔ケア用品を使用し、週1回消毒洗浄している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 全ての方に対し、トイレでの排泄を行うようにしている。チェック表で一人ひとりの排泄パターンが分かりやすくしている。入居時にオムツだった方もトイレでの排泄を繰り返し促すことで、行えるようになったケースも多い。個々の排泄パターンを確認し、必要な援助を行っている。失禁回数が減ったり、オムツ等が不要になったケースもある。 (外部評価) チェック表で排泄パターンを確認し、誘導してトイレで排泄できるよう支援している。おむつを使用している方も、まずはトイレに座ることを目標に支援しており、便器の背部分に、クッション性のある背当てを手作りする等、環境づくりにも工夫していた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取を促し、食事を消化しやすい形態にしたり、ヨーグルト・牛乳の提供をしている。毎日、運動を取り入れている。又、下剤も便の状態に合わせて調節している。食事前には、良く噛んで食べることを毎回伝えている。ごはんには粉寒天を混ぜて提供し、食物繊維を摂取している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 時間帯や回数は目安として決めている。入浴の順番は本人と相談し決めている。本人の希望があれば出来る限りの対応をしている。お湯の温度は好みに合わせて調節している。夜勤帯の入浴希望が出た場合は、職員体制が整わないため、お断りしている。一般家庭と同様の浴槽しかなく、入居者の重度化してきている現状に対応できにくくなりつつある。また、職員2人で抱えて浴槽に入っているが、不安を感じている入居者もあり、職員の負担も増大している。 (外部評価) 3日に1回入浴を支援しており、時間帯や順番、湯温や温まる時間等、利用者の希望を聞きながら支援している。重度の利用者には職員2人で介助しており、利用者が不安を感じないように、浴槽内では利用者の体勢に注意している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 室内の換気、温度調節に気をつけている。起床・就床時間は個々の生活習慣やその日の体調等に合わせている。昼間の休息は自由にとってもらっている。就寝前にはトイレを済ませ寝巻きに更衣をしている。寝具も毛布や敷きパッドなどは好みで準備してもらっている。車椅子の方は床ずれ予防のため日中休息を取るよう援助している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬情報をいつでも見られる所へファイルし置き、確認するようにしている。 薬の目的や副作用などにも目を通し支援している。 内服薬変更時には、申し送り・日誌の記入をし、薬の内容により、その後の状態観察を行い主治医にも報告をしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活で、一人ひとりの力を活かした役割分担がされている。家事・園芸・買い物・体操・音楽鑑賞・読書・テレビ観賞・工作など行っている。 月1回、レクを計画し実施。個別外出・散歩など気分転換・楽しみにつながる支援を行っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 気候の良い時は買い物や近所を散歩している。外出レク・ドライブ等の実施もあり。 お墓参りなどの希望は家族に伝え、協力してもらっている。 畑で野菜を育て収穫し、花の植え替えを行ったり、草ひきや水やりなども一緒に行っている。	
			(外部評価) 「自宅に帰りたい」「お墓参りがしたい」という利用者には、ご家族と相談して協力を得ながら出かけられるよう支援している。外出計画は、利用者が選んで出かけられるよう支援している。職員が食材の買い出しに行く際に、希望する利用者は一緒に出かけて買い物している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族に個人のお金の管理は自己管理であることを説明し了解を得て、祭りの御祝儀を出される方もいる。ほとんどの方は管理が困難なため手持ちでお金を持っておられず、支払う場面はない。 買い物に行き欲しい物があつた時には、レジに職員と一緒に行き、立替金から支払いしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話をしたり、手紙の返事を書いたりする援助をしている。 贈り物が届いたらお礼の電話を必ずかけるようにしている。 年賀状も希望を確認し出している。 携帯電話を所持し、連絡を取り合う方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>季節の花を飾っている。 月行事に関連した飾りをしている。室内にいても季節を感じられる工夫をしている。 TVの音や外からの光・室温などは入居者に聞いて調節している。 トイレに個人のバットなどを置いているが、目目に触れにくいように工夫している。 毎日掃除をし、気持ちよく過ごせるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間には、利用者と職員で作った干支の貼り絵を飾っていた。廊下には行事時の写真を掲示していた。ソファの方向をいろいろに変えて配置しており、日中はそれぞれがお気に入りのソファに座って過ごしている。居間に小さい敷き布団を敷いており、横になりたい方が使用している。昼食後に、食堂をほうきで掃いてくれる利用者があり、管理者は「ありがとうございます」とお礼を言っていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者同士の関係性や椅子の配置の工夫をし、最善の居場所作りに努めている。 共用空間には仕切りがないものの、各々の過ごし方ができるように配慮している。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>家族写真や贈り物・手作りの作品・表彰状などを飾っている。 本人の馴染みのものを持ってきてもらっている。 個人個人が使いやすい過ごしやすい空間作りに努めている。 面会があれば自室で過ごされるが、その他は、ほとんどホールで過ごされる。 ポータブルトイレや居室のオムツ類は目目に触れにくいようにカバーを掛けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ベッド・タンスは備え付けであるが、ご自宅の習慣を継続して床に布団を敷いて利用する方もある。ポータブルトイレやおむつ等は目目に触れにくいようにカバーを掛けていた。ご家族やお好きな動物の写真、手作り作品を飾ったり、中には100歳の表彰状を飾っているところもあった。お好きな読書をして過ごす方もある。ご家族が、掲示した写真それぞれにその方の名前や自宅等とコメントを付けて利用者がわかりやすいようにしていた。ご家族と旅行に出かける利用者は、旅行先ごとのアルバムを置いて時々見て楽しんでいる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>危険物は可能な限り除去している。工夫することで出来るようになることは工夫し、改修が必要であれば早急に改修している。 どうすれば安全に快適に自分の力で生活を続けられるかを常に考え対応している。 自分のことはなるべく自分でしてもらい、困っていることは一緒に行動することで安心して活動できるように支援している。 入居者さんによって対応方法に変化が必要なることを日々の業務の中で話し合っている。 補助員も一人ひとりに合わせて活用している。</p>	